天文学とプラネタリウム

第5回　高梨直紘＆平松正顕

「国立天文台でスペースアート編」

さて、いきなり質問です。きれいな星空を思い浮かべてみて下さい。どうですか、思い浮かびましたか？

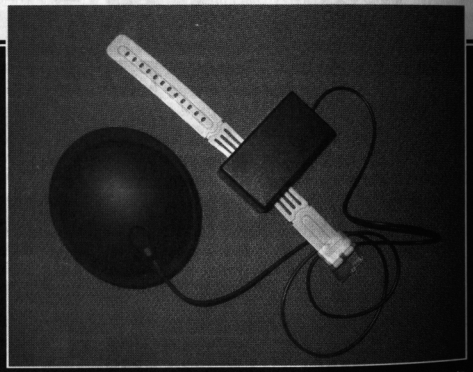
おそらく、ほとんどの方は星野写真のようなものを思い浮かべたのではないでしょうか。人間はふつう、可視光線で星空を認識しています。そのため、星空や天体のイメージは、どうしても視覚のみに頼らざるを得ません。もっと五感で星を、そして宇宙を感じることはできないのでしょうか。

今回、私たちが紹介したいのは三鷹市にある国立天文台で展示されている「Star of Sonance(響きの星)」という作品です。国立天文台の天文台歴史館の中にある暗室を使った、手探りで空間を移動しながら聴覚を中心とした身体感覚で宇宙のイメージを体験できる展示作品となっています。この作品では、様々な天体の出す特徴的な光の波長から変換された音と、その天体のイメージから導かれた音がミックスされ、音楽によって天体が表現されています。

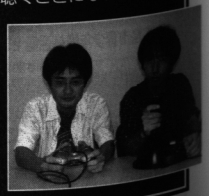
この作品を手がけたのは、「Conference of Space Art（CSA、スペースアート会議）」という芸術専攻の学生さんを中心に結成されたグループです。宇宙における芸術の在り方を追求しているグループで、天文学の普及の手段としての芸術に着目する私たち天プラにとってはとても興味ある存在です。今回、天体の天文学的データから音波長に変換したデータを提供するという形で作品に関わらせていただいたのですが、今後もこのようなコラボレーションを推し進めていきたいと考えています。

なお、この展示は当初夏休み中のみの予定でしたが、9月18～20日にも無料公開されます。虫の音ならぬ星の音を聴きに国立天文台を訪ねてみませんか？

高梨直紘　東大M2／天文学教育研究センター所属
平松正顕　東大M2／国立天文台ALMA推進室所属



暗室に入ると、まず宇宙を満たす宇宙背景放射に対応した音が聴こえてきます。視覚を奪われた鑑賞者は、受信機を着けることで地球からの距離の順に配置された各天体の音楽を手探りで探しながら聴くことになります。



ジョイスティックとキーボードで、AstroArtsの新作ソフト「ステラプロジェクタ」と戯れる高梨（右）と平松（左）です。いやぁ、面白かったですよ、役得役得。

● スペースアート会議　ウェブ
http://www.geocities.jp/cosmo21art/scsa.html

● 国立天文台 見学案内
http://www.nao.ac.jp/J/AboutUs/VisitMTK.html

●「天文学とプラネタリウム」ホームページ
http://www.ioa.s.u-tokyo.ac.jp/~takanashi/tenpla/